中規模輸送・長期保存用水素貯蔵材料の開発

近藤 亮太

関西大学 化学生命工学部 化学·物質工学科





成果概要

1. 高熱伝導性Mg/Fe積層体の最適化

水素吸蔵量は材料ベースで5.8mass%を示し、 約2tの積層体を使えば、1400Nm³の水素を長期間 保存可能であることが示された。

2. 連続体Ti系水素解離触媒の開発



図 4.1 ジーベルツ型装置を用いたMg/Fe積層体の水素化時間と吸蔵量との関係。初期導入水素圧力は、 水素化時では3,87 MPa、保持温度は693 K、加熱時間は水素化時では20 ksとし、水素化・脱水素 化を6サイクル行った。

Ti-1.0Pd合金はMgの水素化や分子変換触媒として活性化処理なしに利用でき、高い有 用性が期待できることが示された。 また、DMF保護されたPd NPs中で加熱処理を施すことによって、表面Pd濃度を濃化させ

また、DIMF体護されたPUINPS中で加熱処理を施すことにようし、衣面PU濃度を濃化させることに成功した。

3. Mg系水素貯蔵モジュールの試作

Mg/Fe積層体を大量生産するには、既存技術によって 生産可能であることが重要である。 Mg/Fe複合線材を作製したところ、0.2MPaの水素圧 カ下でも水素を吸蔵し、20mmという線長であっても水 素を吸蔵可能であることが示された。



図 4.1 線長20mmMg/Fe複合線材の水素化時間と水素化量との関係



成果概要

<査読付き論文> 2件

- M. Utsunomiya, R. Kondo, T. Oshima, M. Safumi, T. Suzuki, Y. Obora, Cross β-arylmethylation of alcohols catalysed by recyclable Ti-Pd alloys not requiring pre-activation, Chem Commun (2021) (IF:5.996).
- 2. Y. Takahashi, R. Kondo, M. Utsunomiya, T. Suzuki, H.T. Takeshita, Y. Obora, Ti–Pd Alloys as Heterogeneous Catalysts for the Hydrogen Autotransfer Reaction and Catalytic Improvement by Hydrogenation Effects, ChemCatChem 2432-2437 (2019)(IF:4.853).

<査読付論文に準ずる成果発表> 1件

1. R. Kondo, H. T. Takeshita, Magnesium-Based Materials for Hydrogen Storage: Microstructural Properties, Magnesium - The Wonder Element for Engineering/Biomedical Applications (2019).

<知的財産権>

- 近藤亮太、秋月孝之、瀬尾尚之、柗本教介「金属被覆マグネシウム線及びその製造方法」、 特願2021-2553、2021年1月12日
- <口頭発表(学会等)> 21件 内国際学会5件
- <「国民との科学・技術対話」の実施>4件
- <マスコミ等への公表・報道>1件
- <研究成果による受賞> 1件





Mg系水素貯蔵材料の持つ問題可決への取組み





1. 効率的なMg/Fe積層体作製方法の確立



【検討項目】

1-1.初期Mg厚さの及ぼすMg/Fe積層体の水素実容量への影響





4

1. 効率的なMg/Fe積層体作製方法の確立

1-1.初期Mg厚さの及ぼすMg/Fe積層体の水素実容量への影響



 初期Mg厚さが250µmで高容量を示した (H/M=1.5、5.8mass%)
Mg(100): 1.2、4.7mass%
Mg(40): 1.1、4.3mass%



➢ 初期Mg厚さが厚くなるほどMgO生成量が 低減

アスペクト比が大きくなるほど、Mgの酸化の 影響が大きくなる →実容量の低下



2. Mg/Fe積層体の水素実容量の高容量化

2-3. Ti-Pd合金の化学状態、水素移動反応の評価

1a Ni	H ₂ + OH	Base Toluene 135 °C, 48 h	→ UNA	+	N Ja	R ¹	—X +	(HO) ₂ B-	2 cat. T	i _{0.998} Pd _{0.002} K ₂ CO ₃ MeOH 0 °C, 24 h	→	3	
Entry	Alloy catalyst	Base	Conversion (%) ^[b]	Yield (%) ^[b]		Entry	Х	1 (R ¹ -)		2 (R ² -)		Yield (%) ^b	
				•		1	Br	-H	1a	4-Me	2a	81	3 a
			1a	3a	4a	2	Br	4-CF ₃	1b	4-Me	2a	92	3 b
1	Ti–0.2Pd	кон	80	64	12	3	Br	4-COCH ₃	1c	4-Me	2a	90	3c
•				•••		4	Br	4-CHO	1d	4-Me	2a	86	3d
2	Ti–1.0Pd	КОН	87	76	8	5	Br	4-OMe	1e	4-Me	2a	73	3 e
3	Ti–0.2Pd(Hy)	КОН	>99	97 (85)	<1	6	Br	1-nap	1f	4-Me	2a	89	3f
4	Ti–0.2Pd(Hy)	KO ^t Bu	>99	>99	<1	7	\langle	Br	1g	4-Me	2a	74	3g
5	Ti–0.2Pd(Hy)	K ₃ PO ₄	19	<1	8	8	T	4-OMe	1h	4-Me	2a	92	3e
6	Ti–0.2Pd(Hy)	none	5	n.d. ^[c]	<1	9	I	2-Me	1i	4-Me	2a	88	3h
7 ^[d]	Ti–0.2Pd(Hy)	КОН	13	6	<1	10	ſ	S_I	1i	4-Me	2a	89	3i
8 ^[e]	Ti–0.2Pd(Hy)	КОН	32	24	5	10	```		⁺J			07	01
9 ^[f]	Ti–0.2Pd(Hy)	КОН	71	68	<1	11	Ι	-H	1k	2,5- Me	2b	87	3j
10	none	КОН	21	17	4	12	I	-H	1k	4-C1	2c	82	3k

ChemCatChem, 11 (2019) 2432. (IF: 4.674)

Bull. Chem. Soc. Jpn., 92 (2019) 710. (IF: 3.526)

<u>水素移動反応を実現</u>



3.抵抗加熱法による有機ハイドライドからのMg/Fe積層体を用いた脱水素化





4. 大型モジュール化に関する検討(社会実装に向けた検討)



□ 加工方法が単純、加工業者にとって新たな設備投資が不要、一般的加工法
⇔ 加工法がバッチ処理になるため、生産効率が悪い・・・高コスト化





全体概要





水素吸蔵合金の役割



【電池】 ショートレンジでの 電力需要に対応

【水素を使った燃料電池】 ロングレンジでの 電力需要に対応

<水素> エネルギー密度が高い 長期保存が可能 システムがコンパクト

⇔ 応答速度が遅い 熱管理の問題





N. Endo, et al., Int. J. Hydro. Energy. 44(2019) 7118-7124.

水素貯蔵材料としてのMg



≻ 低い核生成速度

33% volume difference between Mg and MgH₂

➤ <u>遅い水素拡散速度</u>

 $D_{\rm H}^{\rm MgH2}$ =1.1x10⁻²⁰ m² s⁻¹(305 K)

*D*_H^{Mg}=7x10⁻¹¹ m² s⁻¹ (300 K)

▶ <u>コア-シェルタイプの水素化物の形成</u>

core: Mg shell: MgH₂

[1] J.F.Stampfer Jr., C.E.Holley Jr., J.F.Suttle, J. Am. Chem. Soc. 1960, 82, 3504–3508.

[2] J.J.Reilly, R.H.Wiswall, Inorg. Chem. 1967, 6, 2220–2223.

[3] L.B.Pankratz, Thermodynamic Properties of Carbides, Nitrides, and other Selected Substances. pp. 957, 1995







Mgを水素貯蔵材料として使うには?

従来の利用率の向上方策(MgH₂生成率向上方法)

- ▶ 格子欠陥の導入
- ▶ 相転移
- ▶ Mg粉末のナノサイズ化
- ▶ 触媒の添加

【粉末化した場合のデメリット】

- ▶ ハンドリングの低下:大気非接触
- ▶ 熱管理が困難に:熱伝導性の低下
- ▶ コスト高:触媒添加、ハンドリングの低下

[1] J.F.Stampfer Jr., C.E.Holley Jr., J.F.Suttle, J. Am. Chem. Soc. 1960, 82, 3504–3508.

[2] J.J.Reilly, R.H.Wiswall, Inorg. Chem. 1967, 6, 2220–2223.

[3] L.B.Pankratz, Thermodynamic Properties of Carbides, Nitrides, and other Selected Substances. pp. 957, 1995







水素貯蔵材料に求められる条件



- ① 水素化前は大気中で取扱い可能
- 水素貯蔵材料の利用率が高い
- ③ 高熱伝導性を有する

粉末形状よりもバルク状で水素化可 能な材料が望ましい!?



Mg/Fe積層体の特徴



- ▶ 繰返し圧延を利用した、Mgの一次元方向の ナノサイズ化
- →Mg+H₂=MgH₂の反応速度の向上
- ▶ MgとFeは互いに混じり合わない
 - (安定な化合物相が無い)
- →MgH₂脱水素化時のMgの粒成長を抑制
- ▶ 水素化時、MgH₂/Feとなり、バルク形状を保つ
- →金属層(Fe)存在による高い熱伝導性(高い反応速度)

Mg/Fe積層体



MgH₂圧粉体(比較材)





Mg/Fe積層体の特徴





Mgとの複合材を作ったとしても、水素化に対するMgの利用率が不十分 →Mgの利用率を向上させる必要がある



Mg/Fe複合線材の水素化容量評価



Mg合金の水素化後の組織



[1] R. Kondo, et al., J. Japan Inst. Met. Mater., 80 (2016)753-758.



Mg/Mg-Al-Zn(AZ)合金拡散対での水素化物生成量の向上



Mg側でMgH₂粒が粗大化した→成長速度の向上

水素化量=<u>生成頻度 x 成長速度</u>

反応場を如何に制御するか

拡散対の熱処理時間と水素化組織との関係を明らかにする



Mg/AZ91拡散対の熱処理時間と水素化組織の関係



Mg/AZ91拡散対の熱処理時間に対する水素化組織

・界面近傍のMg側で150~200 µm程度のMgH₂(int)が観察された

・熱処理時間の増加に伴って、界面からの離れた位置にMgH₂(int)が生成する傾向が見られた



拡散対試料のAI拡散層厚さと MgH₂(int)の数密度、平均粒径との関係



・AI拡散層厚さが増加するにつれMgH2(int)の生成頻度が低下した

・AI拡散層厚さが約90 µmの試料に比べ約220,310 µmの試料では平均粒形が少し低下したが数 密度に比べ有意な差はみられなかった



MgH₂の生成頻度の変化

3h

熱処理

時間





Mg/AZ合金のAI濃度依存性と水素化処理時間との関係



MgH₂(int)は水素化時間とともに成長していた
Mgに接合する試料のAI濃度の増加に伴いMgH₂(int)は粗大化する傾向があった



水素化時のMg利用率向上を目指し、Mg/AZ拡散対中でのMgH₂異常成長のメカニズムを追うため、熱処理時間と水素化組織との関係を調べた。



- ▶ 熱処理時間が短時間であるほどMgH₂の生成頻度が向上した
- ▶ 熱処理時間とMgH₂成長速度との間には明瞭な関係性は得られなかった
- ▶ 熱処理時間が同じであれば、水素化時間の経過に伴いMgH₂が拡散律速で成長した

水素化時のMg利用率向上を目指す基本視座は 欠陥導入による反応場を制御することが有効であると考えられる



実験結果:ICP測定 Mg/Fe比



表 ICP測定結果とMg/Fe比

= _1, ₩1	発光強度,E		濃度,C / ppm		線材の質	〔量 / mg	質量比(mass%)		
司入不计	Mg	Fe	Mg	Fe	計算値	実測値	Mg	Fe	
Ф1.0	8.9	370	8.0	87.6	191.1	203.5	8.4	91.6	
Φ0.5 (A)	11	410	9.9	97.1	214.0	200.9	9.2	90.8	
Ф0.5 (В)	16	370	14.3	87.6	203.8	202.0	14.1	85.9	

水素吸蔵合金を利用した産業界の動き

富谷市における既存物流網と純水素燃料電池を活用した低炭素水素サプライチェーン実証 – 代表事業者:株式会社日立製作所(H29~H31年度)【宮城県富谷市】

 ・太陽光発電により製造した水素を、水素吸蔵合金やみやぎ生活協同組合の既存物 流網を活用して輸送し、地域内の協同組合店舗や一般家庭に設置する定置用燃料 電池に供給し、利用する。



再エネ水素でホテルの年間電力をカバー ハウステンボス様「変なホテル」

 $H_2 \cap ne^{i}$ 導入事例

蓄電池ユニット

H₂

▲ 水電解水素製造装置ユニット

H20

水素貯蔵タンク

コンテナの長さ 6m × 6 = 36m

水素吸蔵合金タンク

給水タンク

2016年3月から稼働中

水素EMS

大成建設株式会社 室蘭市 国立大学法人九州大学

国立大学法人室蘭工業大学 株式会社日本製鋼所 株式会社巴商会 株式会社北弘電社



事業期間:2018~2019年度





水素吸蔵合金タンク

コンテナの届き 3.6m

燃料電池ユニット

ウェストアームD棟12室

Liイオン蓄電池システムとの比較

●接地面積約1/3以下
●設備コスト約4割

H2

10